

二〇二三年五月二四日

鶯の鳴きつぐ道を奥院へ

わかば

新樹光高層ビルの窓に映ゆ

ぽんこ

新緑や一直線に御所通り

ぽんこ

編み込みの子の大人びし新樹影

素 秀

ひらがなのスコアボードやこどもの日

かかし

癒えてゆく日にち葉や花は葉に

たか子

退院の家居安らぐ夏初め

たか子

山藤を揺らし入線一両車

愛 正

太陽の軌道正しく夏の海

宏 虎

ミルトスの花まつ白やみどりの日

む べ

ご開帳合はす手解かぬ媼かな

なつき

よう子

漣の代田にゆがむ山の影

こすもす

毎週句会秀句・みのる選・二〇二三年五月一五日

苑めぐるどの道とるも若葉萌ゆ

はく子

行厨は風車の丘の薫風裡

はく子

暮れなずむほどにしるきは鉄線花

む べ

配達夫来て子燕のへの字口

素 秀

風薫る野外授業の黄色帽

愛 正

心字池ふちどりて燃ゆ躑躅かな

わかば